

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	修了者数合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営情報学部経営情報学科	212	53	50	200	61	4	58	8	46	12	51	12	72	1			288	37
経営情報学部情報ネットワーク学科	193	23	50	200	56	13	55	19	26	21	50	30	52	7			239	90
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合計	405	76	100	400	117	17	113	27	72	33	101	42	124	8	0	0	527	127

認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	本教育プログラムにおける身に付けられる能力等については「社会においてどのようにデータやAIを取り扱っているのか、そしてそれらを利活用しているのかに関する知識を身につけるとともに、データの取り扱い方やデータを読む力などの基礎的な能力を身につける。」ことを目標として推進してきた。その結果、プログラム必修である情報学入門や統計学入門をはじめとする関連科目において、「社会においてどのようにデータやAIを取り扱っているのか、そしてそれらを利活用しているのかに関する知識」を身につけるような講義を導入し、多くの学生が履修するようになった。また、「データの取り扱い方やデータを読む力などの基礎的な能力」については、上記科目以外にも本学の特色である経営情報に則った科目も含め、多くの事例紹介を含め、身につけるべき能力の獲得に向けた取り組みを推進できた。
②履修者数向上に向けた取組	履修者の向上に関しては、本プログラム開始後2年間で、チラシ作成とオリエンテーションでのプログラム紹介等の広報活動の最適化を図った。しかし、十分な履修者の増加にはつながらず一定の効果はあったもののそれ以上の効果が出ないままであったが、昨年度より学生に成績表を配布する際に、リテラシーレベル修得までに必要な科目数や達成状況等を可視化した学生個々の教育プログラム用「履修カルテ」を作成し、個人に目標を立ててもらう工夫を施したところ、前年度の1.5～3.0倍に履修者が増加した科目が出てきた。小規模校ならではの取り組みと言える「履修カルテ」によって、本プログラム修得に向けた科目の履修者が増加したことは評価できる。
③修了者数向上に向けた取組	上記②に記載した通り、昨年度より学生に成績表を配布する際に、リテラシーレベル修得までに必要な科目数や達成状況等を可視化した学生個々の教育プログラム用「履修カルテ」を作成し、個人に目標を立ててもらう工夫を施したところ、当該教育プログラム修了に要する科目(必修6科目、選択科目3科目)の取得者数は増加しており、さらに修了まで残り1科目、2科目の学生が増加していた。したがって、「履修カルテ」を最大限に活用し、修了まで残り1科目、2科目の学生に対して修了認定まで導いていくことで修了者数の増加につながると考えられる。
④関連する資格の取得推進に向けた取組	本プログラムに関連した資格としては、統計検定などのデータサイエンス系の資格と経営系の資格を取得するように、各講義の担当教員によって指導をしてもらっている。今後は、生成AIパスポートやG検定といった人工知能やデータサイエンス系の資格がさらに増えているので、それらを取得してもらうように講義内容だけでなくシラバスへの記載なども踏まえ、より多くの資格取得を学生に促す。
⑤修了者の進路、企業からの評価	本学ではキャリアデザインセンター(CDC)という就職をサポートする部署があり、そこで卒業生や就職先企業に対してアンケート調査を実施している。CDCとの連携によって、アンケート調査に関して、当該教育プログラム修了者に関するデータ収集・分析の他、企業の意見も含め結果をまとめていく予定である。今現在、当該プログラム修了者が就職して3期分となる。したがって、現在は具体的な結果を提示できるまでには至っていないものの3年分の修了生と卒業後の進路・企業評価を含めて蓄積されたデータをもとに分析を進めていく。
⑥プログラムの改善状況	当初、「情報リテラシー演習」という科目を申請していたが、当該科目はPC操作やOffice等の演習がメインであるため、よりデータ分析やAI技術をメインとして開講されていた「情報リテラシー演習II」という科目に変更申請を行った。これによって、本教育プログラム修了に際し、データ分析や人工知能に関する知識・技術の基礎が身に着いた学生が多くなったと考えられる。また、教育プログラム取得必須科目の中に新たに生成AIの利活用などの内容を取り入れることで、認定期間内に変わってきたモデルカリキュラムに準じた改善を行ってきた。
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	現在、本学のカリキュラム改正が検討されており、当該教育プログラムの「情報リテラシー演習II」を全学必修科目に変更予定である。必修科目にすることで、全学生が「情報リテラシー演習II」を履修するようになり、さらに当該教育プログラムの修了を目指す学生が増えることが期待できる。また、修了者の卒業後に追跡調査として今年度よりアンケート調査を開始した。この結果を集計し、プログラムの運営に役立てることで、学生にとって魅力あるプログラムとなるように改善や工夫を重ねていく。

大学等名	九州情報大学	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	初回認定年度	令和3年度

取組概要

経営情報学部

経営情報学科

情報ネットワーク学科

KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の特色

- プログラム修了判定を半期ごとに実施し、半期ごとに修了証の授与
⇒ 学生の就職活動や進学準備に効果的に活用してもらう
- 単科大学の利点を活かした学生ひとりひとりに寄り添うきめ細かな教育

基礎力を修得しながら応用力の修得を目指す学生に対する
データサイエンス教育基盤の形成と応用基礎レベルへの橋渡し



リテラシーレベル（18単位）

必修科目	選択科目（3科目以上）
情報リテラシー演習II	マーケティング論
情報学入門	消費者行動論
基礎数学	マーケティング・リサーチ
情報倫理	経営分析
統計学入門	ビジネスプログラミング
経営情報学I	経営情報学II

【身につけることのできる能力等（リテラシーレベル）】
社会においてどのようにデータやAIを取り扱っているのか、
そしてそれらを活用しているのかに関する知識を身につけるとともに、
データの取り扱い方やデータを読む力などの基礎的な能力を身につける。

<実績>

	経営情報学科	情報ネットワーク学科	合計
令和7年度前期終了現在	37	90	127

<学生アンケートより>

「教育プログラム（リテラシーレベル）を修得してよかったこと」

- ◆ データサイエンスの知識と技術がバランスよく学べました。
- ◆ 履修して良かったと思うことは、新しいスキルやキャリアの機会を拡大できたことです。
- ◆ 繋がりのある学習が出来たので良かったです。
- ◆ 就活に活用できたから

<取り組み事例>

- 修了者・履修者を増やす取組【履修カルテ】



⇒ 前期・後期オリエンテーションでの学生への成績配布時、上記の「履修カルテ」を学生個々に配布した。
※履修カルテ導入前に比べ、1.5~3.0倍に履修者が増加した科目が複数存在した。

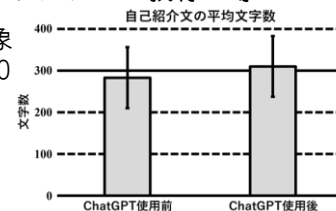
- 産業界との連携事例



⇒ 外部企業による実データの提供および、学生による分析後、企業の方へ向けたプレゼンテーションを実施し、学生におけたフィードバックを頂く。

- 初年次教育でのAIリテラシー教育の導入

⇒ 学部1年生を対象に、自己紹介文を300文字程度で作成する課題を実施した。
生成AIの使用前後によって、平均文字数が増加しただけでなく、日本人学生・留学生を問わず、自己紹介文の質的な向上も確認された。



<九州情報大学の教育プログラムが学生にもたらす効果>

- ① 経営情報学に基づくリテラシーレベルの修得
- ② 在学時のキャリア形成に役立つ
- ③ 就職活動でのアピールポイントの獲得
- ④ 応用基礎レベルへの橋渡し